

令和3年10月19日

会員 各位

(一社) 沖縄県認知症グループホーム協会
会長 宮城 玲於奈

第18回 沖縄県認知症グループホーム大会 講演会のお知らせ (No.1)

ワクチン接種が広がりつつあり、感染者も減少しておりますが、「第6波」の感染拡大を心配する声もあることから、今年度大会もオンラインでの講演会を実施する事と致しました。

今回のテーマは「認知症介護の歴史と希望・～コロナ禍を超えて～」としました。

認知症介護の歴史を振り返り、コロナ禍の今、何が求められているかを考えたいと思います。

多数のご参加をお待ちしております。

記

- テーマ : 「認知症介護の歴史と希望」～コロナ禍を超えて～
- 講師 : 三好春樹氏
- 日時 : 令和3年11月19日(金) 14:00～16:00
- 開催方法 : ZOOMによるオンライン配信
- 申込方法 : 事業所名・名前をご記入のうえ
okigh2017@gmail.com へ送信
- 申込締切 : 11月12日(金)

沖縄県認知症グループホーム協会 事務局 電話 090-6869-4458 Fax 098-923-2728 http://www.gh-okinawa.com/ mail:okigh2017@gmail.com

講師プロフィール

三好 春樹（みよし はるき 1950年）

理学療法士

広島県生まれの介護、リハビリテーションの専門家。
生活とリハビリ研究所代表

「オムツ外し学会」や「チューブ外し学会」を立ちあげて介護、看護、リハビリの枠を超えて日本全国で「生活リハビリ講座」を開催し、介護に当たる人たちに人間性を重視した老人介護のあり方を伝えている。

広島修道高等学校で生徒会長として学生運動を主導し卒業直前に退学となる。

1974年から、特別養護老人ホームで介護職員として働く。
その後、文部省大学入学資格検定を経て、九州リハビリテーション大学校で学び、理学療法士として老人介護の現場で老人のリハビリテーションに従事する。

1985年、広島に事務所を立ち上げ、東京、大阪、広島で「生活リハビリ講座」を開始。
その後、事務所は、東京に移転、生活とリハビリ研究所と銘打ち、講座も札幌から沖縄までと拡大。「おむつ外し学会」、「チューブ外し学会」などを立ち上げるなど、聴講者や仲間もリハビリから介護、看護師、医師までに広がって、介護福祉の世界の新しい潮流を切り開いた。生活障害、関係障害など、新しい視点の提言も積極的に行っている。

○主な著書

- 『在宅介護応援ブック 介護の基本 Q&A』（東田勉 編）講談社 / 2015年
- 『在宅介護応援ブック 介護保険活用法 Q&A』（東田勉 編）講談社 / 2015年
- 『野生の介護——認知症老人のコミュニケーション覚え書き』雲母書房 / 2015年
- 『介護のススメ！——希望と創造の老人ケア入門』ちくまプリマー新書 / 2016年
- 『目からウロコ！間違いだらけの認知症ケア』主婦の友社 2008
- 『介護保険活用法 Q&A』講談社 2015

出典：フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』